

氏 名 三浦 聖高  
学位の種類 博士 (医学)  
学位記番号 乙第330号  
学位授与年月日 令和 2年 9月 2日  
審査委員 主査 教授 北垣 一  
副査 教授 佐野 千晶  
副査 准教授 玉置 幸久

### 論文審査の結果の要旨

肺結核は感染力が強く、非結核性抗酸菌症は感染力が弱いことから、臨床症候の類似した両疾患を識別することは極めて重要であるが、これまで鑑別は容易でないとされていた。

申請者は非結核性抗酸菌症の80%以上である *Mycobacterium avium*、*Mycobacterium intracellulare* 肺感染症 (MAC症) の胸部CT画像所見と肺結核患者の画像所見を比較し、その鑑別点を明らかにすることを試みた。

2005年から2015年に島根大学医学部附属病院で診断基準を満たしたMAC症100例、肺結核42例を後ろ向きに調査した。胸部CT所見を粒状影、結節影、粗大陰影、空洞病変、つぼみ兆候、気管支拡張、気管支拡張と連続する粒状影、気管支拡張と連続する粗大陰影、石灰化、胸水に分け、さらに両肺を計8区域に分けて評価した。結果は呼吸器専門医2名、放射線科専門医1名による合議で決定した。

MAC症では女性が多く、免疫不全症例が有意に少なかった。CT所見で両疾患で類似したのは粒状影、粗大陰影、空洞病変の頻度だった。一方MAC症では広範囲な気管支拡張、気管支拡張と連続する粒状影、粗大陰影が有意に多かった。また、肺結核では石灰化、胸水が有意に多かった。病変部位はMAC症では右中葉と左舌区に、肺結核では右上葉、左上区に多かった。以上から胸部CTでMAC症と肺結核を鑑別することは可能と考えられた。本研究の結果は臨床的有用性が高く学位授与に値すると判断した。